

私が考える『部活動』の教育的な価値（意義）

盛岡市立巻堀中学校

校長 西郷 晃

中学校学習指導要領（2017年3月改訂 2021年度全面実施）より

第1章 総則

第5 学校運営上の留意事項

1 教育課程の改善と学校評価、教育課程外の活動との連携等

ウ 教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるように留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

※ 高等学校学習指導要領（2018年3月改訂 2022年度入学生より年次進行で実施）においても同内容記載。

『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』（H30 スポーツ庁）より

☆ 学校の運動部活動は、・・・体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場として、教育的意義が大きい。

◇ 心もからだも育てる部活動

部活動は、学校の教育活動として行われるものであり、顧問教師や外部指導者（コーチ）の指導のもと、スポーツや文化、科学等に興味と関心をもつ同好の生徒たちが、部員同士で切磋琢磨したり協力し合いながら、自己の能力に応じてより高い水準に挑戦する中で、スポーツや文化、科学等の楽しさや喜びを味わう自主的・自発的な活動です。

学校現場での『部活動の意義』として考えられること

- (1) 心身をリフレッシュさせるだけでなく、仲間とともに自主的・自発的に行う活動が、生徒に楽しさや喜び、やりがいをもたらして、学校生活をより豊かに充実したものにすること。
- (2) スポーツや文化、科学等の専門的な技能・知識等を身につけて、生涯にわたってスポーツや文化、科学等に親しむ資質や能力、態度を育てること。(体力の向上、健康の増進)
- (3) 学級や学年を離れた集団の中で、互いに認め合い、励まし合い、高め合いながら自己の存在や責任を見つめて、豊かな人間性や社会性を育成すること。
- (4) 共通の目標に向かって努力する過程を通して、顧問と生徒、生徒同士の信頼関係が深まり、教員にとっても生徒理解をより深めるための重要な機会であること。
- (5) 競技力の向上や、スポーツ・文化・科学等の普及・発展に大きな役割を果たすこと。

『部活動』は、単なるスポーツ・文化・科学等の普及や振興にとどまらず、生徒の心身の健全な育成と豊かな人間形成を図る上で、とても大きな意義をもつ『教育活動』です。

しかし、最近では少子化に伴う生徒数の減少や学級減による教員配置数の減少、顧問教員の高齢化や専門的指導力を有する指導者の減少などにより休部・廃部へと繋がり、生徒の多様なスポーツ・文化・科学等の活動へのニーズに応えることが難しくなっています。

このような状況から、地域指導者の活用や複数校合同部活動の推進等、柔軟な運営や地域の実態に応じたスポーツ・文化・科学等の活動の環境整備が求められています。

学校でも、現在の部活動の運営を行いつつも、今後地域の活動として移行されていく予定の『**地域スポーツ活動**』『**地域文化活動**』のより良い在り方についてもさらに検討を加えながら、行政や地域等と一緒に取組んでいかなければならないと考えています。